

# 実践紹介集（令和4年度）

浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

地区	No.	事業名	実施団体名
浜田	1	みはしネットがしかける 地域・学校・家庭の連携強化事業(平成30年度採択事業) (1)「三階小学校1年生親睦会/2023年度新入学児童・保護者交流会」 (2)「三階小学校5年生の防災学習」	みはし地域まちづくりネットワーク
	2	輝きチーム結成事業 4年目(令和元年度採択事業)	
金城	3	地域観光施設設置事業	今福地区まちづくり委員会
弥栄	4	情報発信推進事業	弥栄のみらい創造会議
	5	この夏『君が』『地域が』…変わる 事業	
	6	地域力創造アドバイザー招聘事業	
三隅	7	岡見マップ作成事業	岡見地区まちづくり推進委員会

# 事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：みはし地域まちづくりネットワーク 子ども部会

## 令和4年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名 みはしネットがしかける 地域・学校・家庭の連携強化事業  
**「三階小学校1年生親睦会／2023年度新入学児童・保護者交流会」**

事業費（予算額）：135,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：135,000 円）

### P 事業の目的（解決を目指す課題）

三階小学校の新入学は複数の保育園・幼稚園からの入学してくるため、親子共に顔見知りが多く、つながりが希薄である。そのため入学前から親同士気楽にコミュニケーションが取りにくく、不安感がある。

- ① 保護者同士が気楽にコミュニケーションが取れる関係を作ること、孤立を防ぎ、安心して子育てできる環境を提供
- ② 新入学児童が学校生活を楽しみにできたり、地域とのつながりづくりのきっかけとする。

#### 見込まれる成果

- ① 保護者の大半が参加し、連絡先を交換したり、入学への不安についてアドバイスをもらい、不安が軽減される。
- ② 新入学児童が小学生や地域住民と楽しく交流し、入学を楽しみにできたり、地域住民とのつながり

### D 事業の概要

**1年生親睦会**：コロナのため入学前交流会が中止となったためPTA親睦会で運動遊びを提案し、子ども部会が活動の支援を行った。**事前準備**：4月教頭先生に提案しPTAに伝えてもらう。PTA学級委員と打ち合わせ。**当日**6月19日体育館で開催 親子90名参加

#### 2023交流会 ①三階小学校ミーティングルームで新入学の保護者同士の交流会を開催する。

【保護者交流会内容】 浜田親子共育応援プログラム（HOOP）体験／みはしネット子ども部会、はまだっ子共育プロジェクト、まちの縁側の取り組み紹介／ 保護者同士の交流タイム（児童の様子を見ながら）

#### ② 体育館で新入学児童の交流会を開催する。

【児童交流会内容】 運動遊びプログラム（リーベ）の体験／ 新6年生や地域ボランティアと交流

#### 事前の動き

令和4年11月 交流会案内チラシの作成／就学時健診での交流会PRの方法を学校長に了解を得る。

運動遊びプログラム講師／HOOPファシリテーターへ依頼

就学時健診で保護者へ交流会のPR（予告チラシ配布）2月26日開催予定

令和5年1月 交流会の新6年生ボランティア募集

2月 物品購入日で保護者に交流会チラシ出欠ハガキ配布／保育園、幼稚園に企画PR、声かけ依頼

#### 当日

令和5年2月26日（日）13：30～15：30 会場：三階小学校ミーティングルーム・体育館

参加人数：60名（児童兄弟と保護者36名／新6年生ボラ10名／体操講師・子ども部会・HOOP・スタッフ14名）

工夫したこと：参加を促すため事前に所属幼保名をアンケートで聞き取り、幼保関係者に参加の声かけ依頼を郵送または直接お願いに回った。児童の活動見守りに新6年生や地域ボランティア（民生委員や見守り隊）に参加してもらった。

### C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

#### ・上記評価の理由

2019年から途中コロナ禍で2回中止となり計3回開催することができました。参加世帯は2021年に入学予定の半数以上ありましたが、その他2回は1/3にとどまりました。未就学家庭と地域のつながりはまだまだのようです。しかし、参加保護者・児童の感想からは交流のよい機会になったとの声を聞くことができ、在校生や地域住民との交流にもなりよかったと思います。

### A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ・学校での就学前健診や物品購入時の保護者が大半集まる機会にHOOPを開催
- ・親子の交流会（運動遊びなど）企画検討
- ・学校・幼保との連携



HOOP



運動遊び



# 事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：みはし地域まちづくりネットワーク 子ども部会

令和4年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名 みはしネットがしかける 地域・学校・家庭の連携強化事業  
**「三階小学校5年生の防災学習」**

事業費（予算額）：225,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：225,000円）

P

**事業の目的（解決を目指す課題）**

①次世代の地域を創生する人材育成のため地域・学校・家庭と多  
 な主体が連携協働していくこと ②三階小児童が地域の課題を知り、まちづくりを担う地域住民と出会う  
 ③児童から地域へ発信・提言することで、地域も活力を得る

**見込まれる成果**

①みはし地域のまちづくりの取り組みと三階小学校の授業を結ぶ学習プログラムを学  
 校と連携協働して開発する。②三階小児童が学習成果を地域へ発信し、地域住民に活力を与える。

D

**事業の概要**

三階小学校5年生の総合的な学習「わたしたちの暮らしと防災」から自分たちの住む町の  
 災害や防災について学ぶため、みはしネット防災部会と子ども部会・学校が連携して防災学習プログラムを  
 作った。3日間にわたり学習し、学びの成果物として非常持ち出し品のリストや児童の学びの感想、防災学  
 習内容等を掲載したリーフレットを作りみはし地域町内戸配予定（3月）

**学習プログラム**

①みはし地域の水害の歴史 ②災害図上訓練(DIG) ③地域を回り、災害痕跡から学ぶ  
 >事前の動き：8月22日 子ども部会、防災部会、三階小学校5年担任、地域学校協働推進員と内容打合せ  
 >授業日：10月13日 みはし地域の水害の歴史 防災部会 小川寛さんより講義を受ける。  
 10月18日 災害図上訓練(DIG) 防災部会 小川悦子さんと地域の方と行う。  
 11月2日 DIGをもとに防災部会員の説明を受けながら実際に地域を回り学ぶ。  
 >防災学習成果物：9月13日 防災リーフレットの非常持ち出し品りリスト表内容検討  
 2月27日 リーフレット作成、入稿

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

・上記評価の理由

2019年から4年間防災学習を行ってきました。児童の防災意識の高まりを感じ、また  
 地域にも発信する事で、より学びを深めるこ  
 とができたと思います。地域も児童の学びを  
 受け、町内での防災活動につながりました。  
 今後もこの学習プログラムを継続し、児童の  
 学びとともにさらに地域の防災意識の向上  
 を期待します。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組む  
 こと（評価を10に近づけるために）

- ・防災学習プログラムの継続
- ・三階小学校・みはしネット防災部会との連  
 携
- ・町内会・自治会との連携
- ・子供会・保護者との連携
- ・防災活動支援の人材発掘



小川寛さん授業

小川悦子さん  
DIG授業



災害の痕跡防災対策見学



防災リーフレット

# 事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：みはし地域まちづくりネットワーク

令和4年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

輝きチーム結成事業 4年目

事業費(予算額): 1,000,000円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業:1,000,000円)

P

事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果

■目的:みはしネットの各部会の実働部隊の層がまだまだ薄いので、協力者を増やしていく事。また、近隣住民同士が集まる機会がなくコミュニティが脆弱であること。

■見込まれる成果:みはしネットの各部会の事業への協力者が増え、その事業を通じて、地域住民同士のネットワークが強化され、新たなコミュニティが生まれてくる。

D

事業の概要

みはし地域住民が過半の5人が集まって、みはし地域が住み良い地域なることに繋がる活動を年に複数回行う場合に、輝きチームとしてみはしネットに登録していただく。登録していただいた輝きチームには、活動費の支援や、活動簿の場の優先提供をみはしネットが行う。

当事業は、平成30年度に「社会参画型サロン事業」として実施した事業を拡充したものであり、現在11団体が登録済みである。

今年度はコロナ渦ではありましたが8団体が活動しました。新規に「相生町2町内災害から守る会」の1団体の登録がありました。来年度は最終年度であり、輝きチームを拡大していきたいです。

活動団体: Ririka サロン・相生町2町内清掃会・椎茸づくりヨチヨチ会・やまにのぼろう会・相生町2-1町内自主防災会組織準備委員会・相生町2町内災害から守る会・サンピース・Mgmg サロン

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



・上記評価の理由

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動が難しい所もありましたが、新たに1団体のチームが発足し、少しずつありますが、地域コミュニティの再生に繋がっていったと思います。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

登録チームが増えると、いずれ、複数のチームによるコラボ企画や、各部会への提案事業も生まれてくると想定される。

様々な機会を活かして、地域住民への登録の呼びかけと、みはしネット事業への協力要請を進めていく予定です。

やまにのぼろう会



サンピース



# 事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：今福地区まちづくり委員会※

〔令和4年度採択分〕

令和4年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

地域観光施設設置事業(幻の広浜鉄道今福線案内看板設置事業)

事業費(予算額)：358,000円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業：358,000円)

**P** 事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果

幻の広浜鉄道「石見今福駅予定地」への案内板設置場所は、今福地区まちづくり委員会の「もやい市」やJA金城支店・経済センターがあり、地区民を始め多くの人が集まる。案内板を見ることにより“幻の広浜鉄道今福線”や“幻の石見今福駅”への関心が高まり、観光資源の拠点として、県内外から多くの来訪者が見込まれる。また、土木遺産としての魅力を実感し、誇りが持てる。

**D** 事業の概要

幻の広浜鉄道今福線は、平成20年、公益社団法人土木学会から7カ所のアーチ橋が「今福線コンクリートアーチ橋群」として選奨土木遺産に認定された。「石見今福駅予定地」については、多くの問い合わせがあることから、「駅予定地」に案内板を設置し、観光資源のシンボルとしての今福線の周知を図った。

○看板作成

- ・看板の設置(12月)
- ・今福まちづくりセンターたより(1月号)、Instagramにて周知。

**C** 課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・上記評価の理由

案内板の設置により、旧線・新線について、関心や理解が高まったが、概要についての詳細な説明書の要望があるため「8」とした。

**A** 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

観光資源のシンボルとしての今福線周知のため“今福線を守る会”を中心に、今後、5名ぐらいのガイドを養成して、見学者に対応して行きたい。



※「今福地区まちづくり委員会」は令和5年度に名称を「今福まちづくり委員会」に変更しました。

事業報告書  
(課題解決特別事業)

申請団体：弥栄のみらい創造会議

〔令和4年度採択分〕

令和4年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

情報発信推進事業

事業費（予算額）：973,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：913,000円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

令和3年度に弥栄のみらい創造会議を設立し令和4年度には弥栄の10年ビジョンとなる「弥栄地区まちづくり計画」を作成した。弥栄地区まちづくり計画や「弥栄のみらい創造会議」の事業内容等を多くの町民や県外者に周知するためのHPを立ち上げることにした。今後、HP閲覧者の増加、「弥栄のみらい創造会議」の幅広い周知、情報発信が期待できる。

D

事業の概要

① ウェブサイトデザイン（6月～12月）

- ・ウェブ、Facebook、Instagram、LINE等情報動線の設計
- ・コンテンツ（すまい・くらし・しごと・子育て等）の精査及び運用方針の設計
- ・情報のレイアウトや動線設計

② ロゴ作成（10月～12月）

③ 情報発信技術移行（1月～3月）

- ・サイトの取扱説明書作成
- ・効果的な写真の撮り方講座

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・上記評価の理由

試行錯誤しながら、グーグルサイトから魅力的で豊富なテンプレートが利用できるCANVAに移行した。ロゴ作成やサイトの取扱説明書も予定通り行われた。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

タイムリーな情報が流せる魅力的なHPになるよう、令和5年度にまちづくり委員会の部会に就任した新たなメンバーにより随時更新する。



# 事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体：弥栄のみらい創造会議

〔令和4年度採択分〕

令和4年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

この夏『君が』『地域が』…変わる 事業

事業費（予算額）：498,312円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：362,912円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

多世代が参加できるイベントを企画・実施し、子どもや若い世代から高齢者までが繋がりを積極的に作り、お互いが顔見知りの関係になることで、弥栄地域がより一層、安全で安心な住みやすい地域になること、そして地域の伝統文化を継承することを目的とする。

D

事業の概要

- ① 日時 令和4年9月24日（土）17時～20時
- ② 場所 杵束まちづくりセンター駐車場
- ③ 内容
  - ・ステージイベント…石見神楽（杵束神楽社中）、「しまねっこ」と「やっぴー」
  - ・手持ち花火、打ち上げ花火、噴出花火の実施
  - ＊花火実施前に、消防職員さんから火の取扱いについて学習
  - ・露店出店…弥栄のみらい創造会議の各部会、地域住民ほかが運営
  - ＊射的・輪投げ・紐くじ・ヨーヨー釣り・モルック体験ほか
- ④ 来場者 親子連れ、町内住民、町外住民 約350名

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

町内外から子どもや若い世代から高齢者が来場（想定：親子40組+地域住民→350名）  
神楽に見入ったり、ステージに迫って来る子どもの姿が多数見受けられた。  
地域住民が子どもを温かく見守っていた。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

路上や近隣施設の駐車場に停める車が見受けられたので、案内看板増設やスタッフ増員が必要。

今年はコロナ禍の影響で飲食の露店は中止としたが、次年度以降は状況に応じて、飲食の出店を検討する。



# 事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：弥栄のみらい創造会議

〔令和4年度採択分〕

令和4年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

地域力創造アドバイザー招聘事業

事業費（予算額）：480,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：480,000円）

**P** 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果  
ふるさと体験村の再生については、様々な分野が抱える課題の抽出はできても、俯瞰した視点での問題点整理や対応策を検討し実施に移す事ができる専門的知識を有する人材が不足していた。それを解決するために、地域力創造アドバイザーである太田章彦氏の指導を仰ぐ事となった。

**D** 事業の概要

【実施内容】

- ① 「ふるさと体験村に関する企画」の詳細設計及び部門キャップの指導・育成
- ② 令和5年4月稼働のための問題点や注意事項等の整理並びに解決策の指導

【実施スケジュール】（令和5年1月～3月）

- ・プロジェクトリーダーや部門キャップとの打合せ（12回）  
講師謝礼：1回 30,000円：\*12回
- ・弥栄のみらい創造会議事務局との打合せ（4回）  
講師謝礼：1回 30,000円：\*4回

**C** 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

・上記評価の理由

地域力創造アドバイザー太田章彦氏がふるさと体験村のプロジェクトマネージャーに就任頂いたため。

**A** 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

浜田市にとって重要な資源である「ふるさと体験村」を「おもてなしの拠点」（域外の利用促進）「地域づくり拠点」（地域のつながりの場）「学びの拠点」（通学合宿の受け入れ）として継続的に有効活用できる施設に育てる。





事業報告書  
(課題解決特別事業)

申請団体名：岡見地区まちづくり推進委員会

〔令和4年度採択分〕

令和4年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

岡見マップ作成事業

事業費（予算額）：550,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

地域住民に、岡見の良さを再発見してもらおうと共に、地域外の人にPRできるツールを作成することで、岡見の魅力を共有しUターンなどの定住に繋げる。

D

事業の概要

岡見地区の住民から、マップに掲載したい名所についてアンケートを行い、アンケート結果をもとに部会で掲載内容の決定をした。

①進め方

岡見地区まちづくり推進委員会文化広報部が主体となり事業を進行。

②マップ作製

岡見地区住民へアンケートを全戸配布し、マップに記載したい名所を募集。

③看板設置

わくわくマーケット（旧JA）へ看板の設置。

看板の完成（3月）に伴い、お披露目会の開催。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・上記評価の理由

案内看板はみなさんの協力でよい物が出来たと思う。今後、このマップを活用していきたい。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

作成したマップを活用した行事や学習が出来るよう、まちづくりセンターや自治会などとも協力すると共に、保育所や小学校にも働きかける。

配布用にポスターサイズの岡見マップを作成する。



# おかみMAP

わが町探索、再発見！

